

# 変化屋本舗

R-18  
FOR ADULT ONLY!!!



FLATTENING



PETRIFICATION



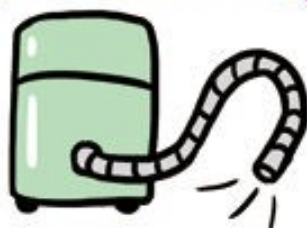
FROZEN



GOODS TF



WARM



VACUUM

状態変化フェチ総合アンソロジー

1

# 変化屋本舗

VOL.1

突撃！？隣の状態変化ゲー 黒野白瀬 03

---

罰ゲーム 牙行 14

---

モンスターの生態「生き人形」 究極のD 15

---

キュアミューズ石化 桃色河馬さん 18

---

剥製化 あおば 19

---

捻りなき蟬攻め/川と石像/展示品少女 蒼灯 20

---

不思議な人形店 見学者/ケンガー 23

---

めだかペーパー/モナカ 龍乃鳳樹 29

---

MSC提供TVショッピング バカ作者 31

---

状態変化大実験！ GARON 41

---

敗北の魔法少女 枯木 45

---

表紙 黒野白瀬

はじめまして、  
僕の名前はアルと  
います

クラスメイトの  
お嬢様、  
リザさんのお屋敷に  
やって来たのですが…



ブロボロ

どうしてこんな  
シチュエーショ  
ンになっ  
てしまっ  
たの  
でし  
ょう  
か  
っ  
!?



突撃!?  
となりの  
状態変化ゲー

黒・野・白・瀬

根本的  
って  
どー  
ゆー  
意味  
です  
か  
っ  
!?



根本的  
に  
全  
部  
こ  
の  
バ  
カ  
メ  
イ  
ド  
、  
ヒ  
コ  
の  
せ  
い  
よ  
!!

10分ほど前  
リザの  
お屋敷にて

その、どうしても  
出来ないゲームが  
あって…  
手伝って欲しいの

それで、リザさん  
お話って？

あ、アンタと  
一緒に遊び  
たいわけじゃ  
ないんだから  
ねっ！

マリモパーティー  
やりましょう！  
マリバ!!マリバ!!

ガラッ  
おおっ!!  
ならみんなで遊び  
ましょうよ!!

はい、じゃあ  
さっそく  
スイッチオン  
ですっ！

P1!

















いやあああ!!!



やりました!  
やりましたよ  
お嬢様!!  
ヒコ、感動の  
ゴールです!!

ラナ?  
あいつ  
やっちゃって  
いいよ

つづく?



罰ゲームは激不味ドリンクを浴びるように飲んでもらいます。

ドリンクって……

接着剤って

書いてあるじゃないですか!!!

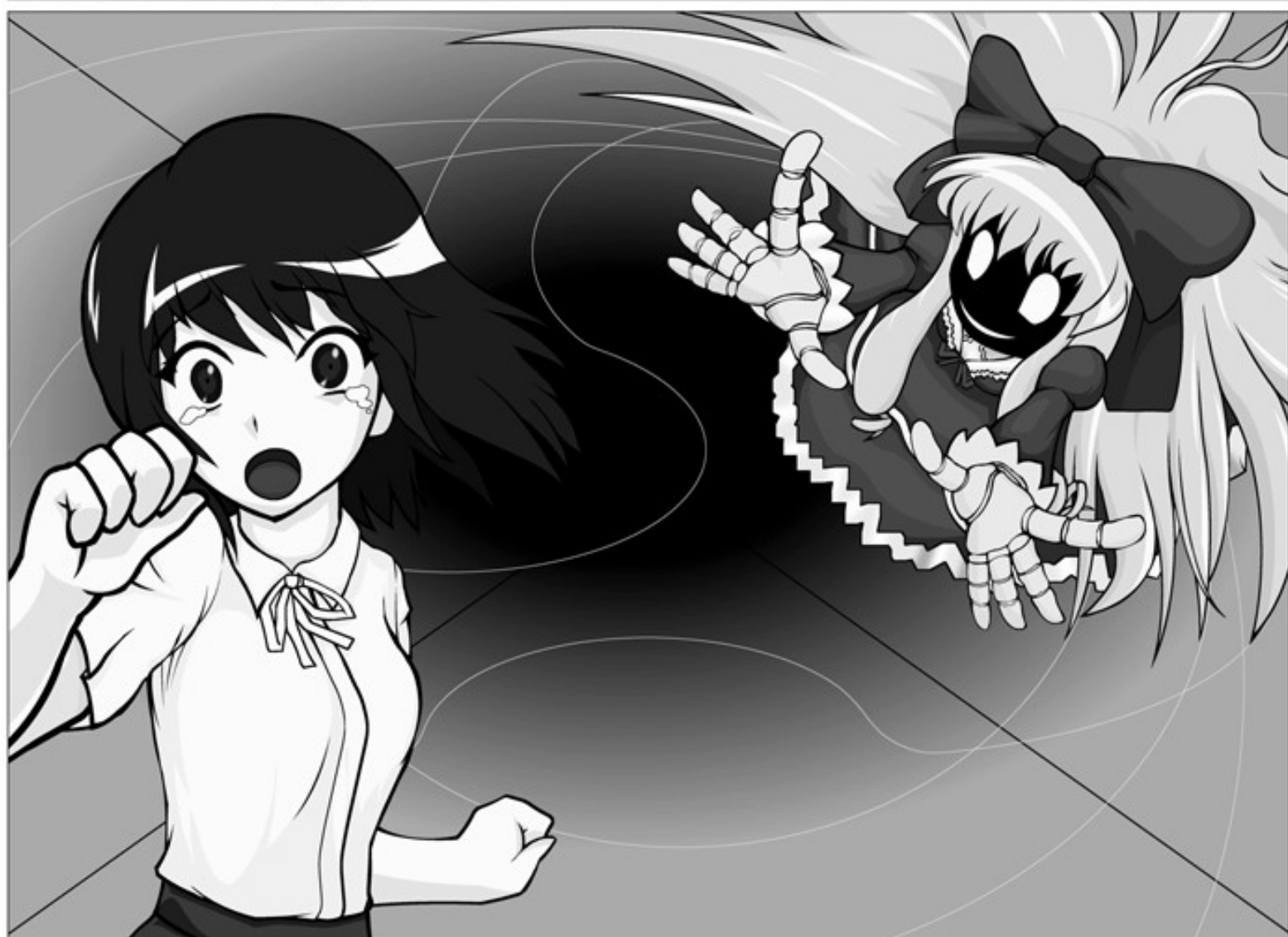
飲む口は  
上でも下でもOK!

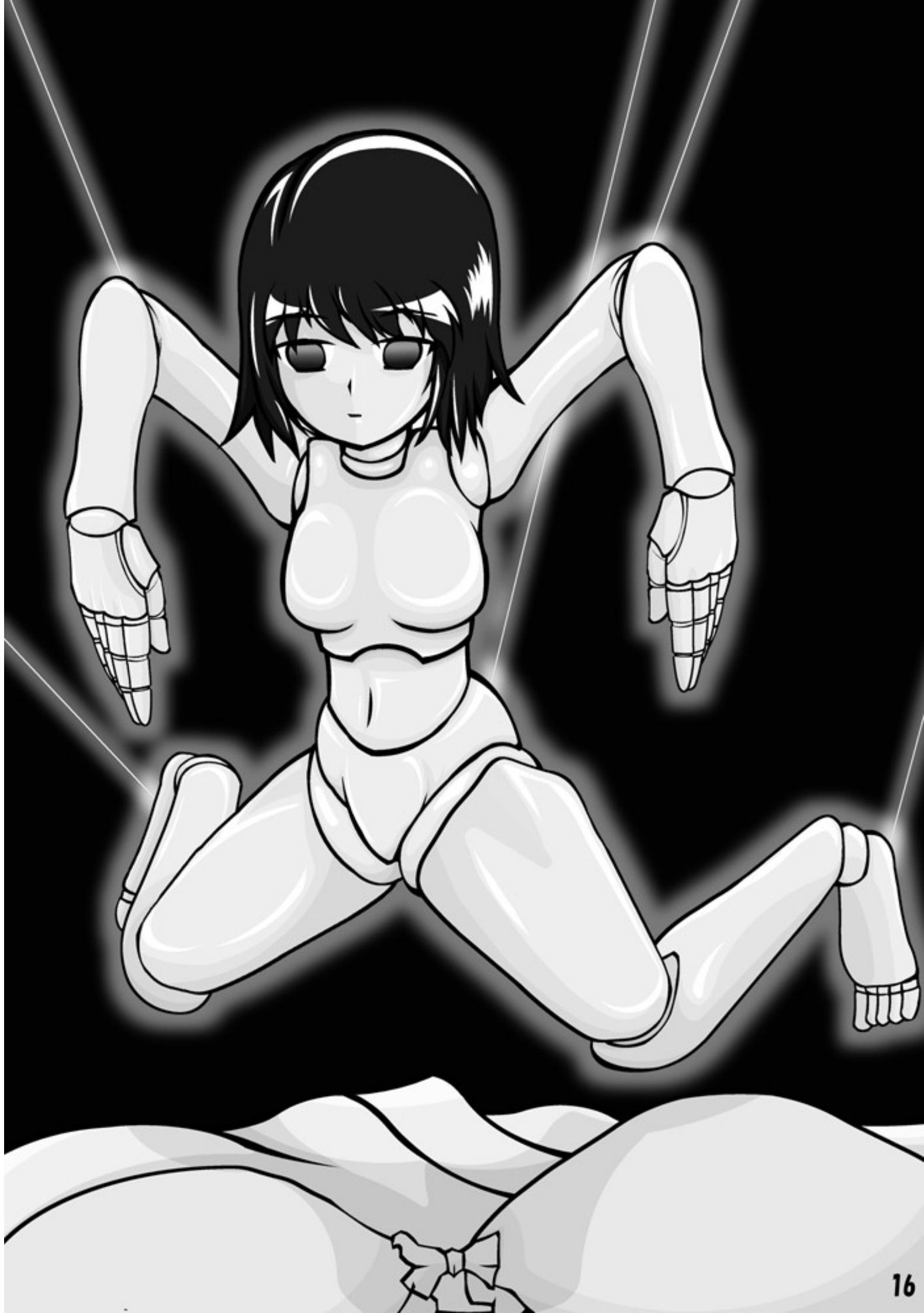
下は口じゃない!!!

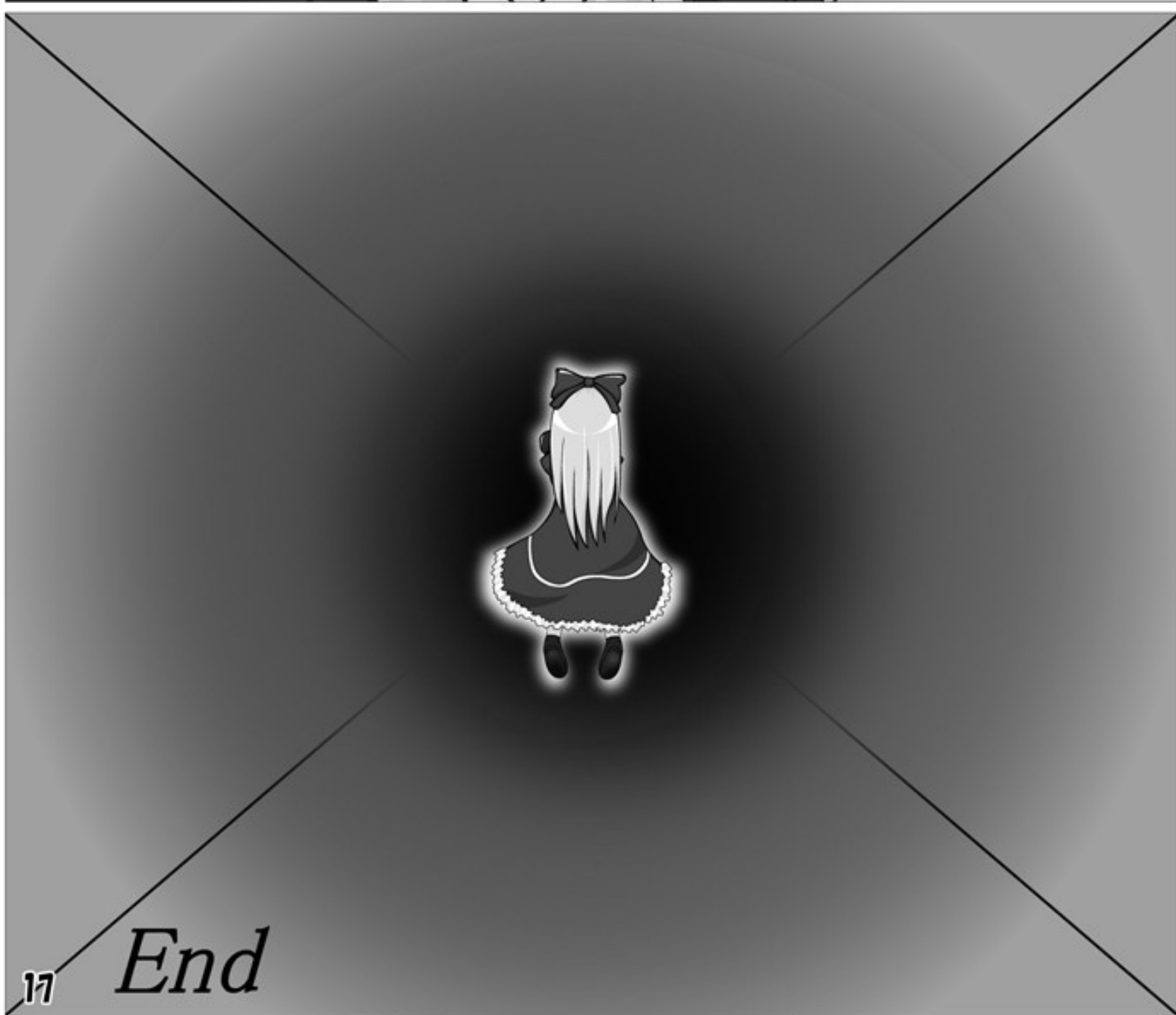


※接着剤を飲むことは大変危険です。決して真似しないでください。

# モンスターの生態 『生き人形』







# キュアミューズ石化

桃色河馬さん



# 剥製化

あおぼ



数多の状態変化の中でも最も好みの分かれる分野だと思いますが、不可逆性を重んじるタチとしては、これは外せません。

身体をそのまま鑑賞物にされてしまう哀れさと、究極の辱めを受けても静かにすべてを受け入れている様は高貴ささえ感じます。

# 捻りなき蠅攻め

蒼灯



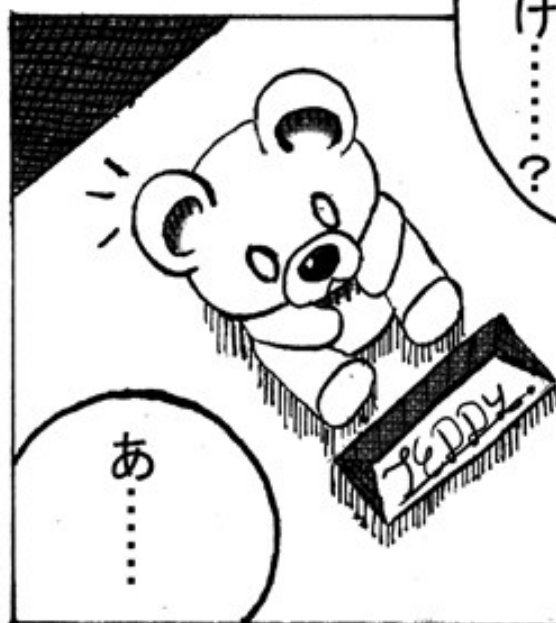
# 川と石像







こんなところに  
お店なんて  
あつたわけ……？



あ……



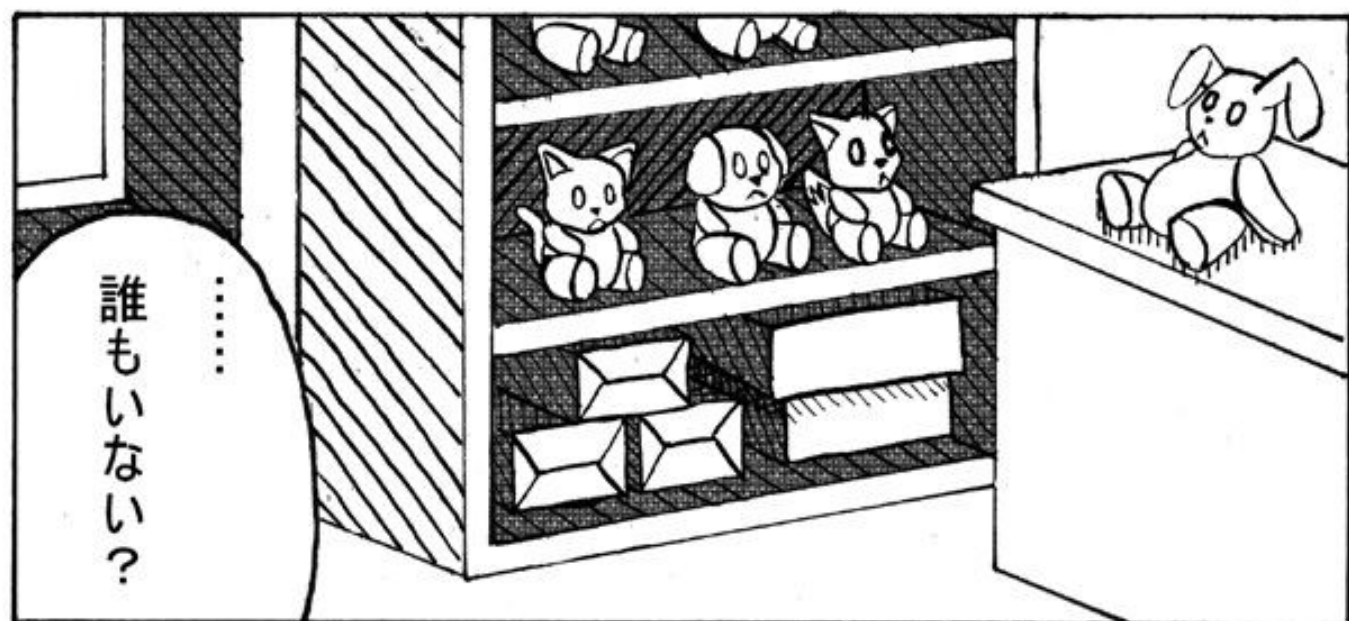
かわいい  
ぬいぐるみ  
だな……



あれ？

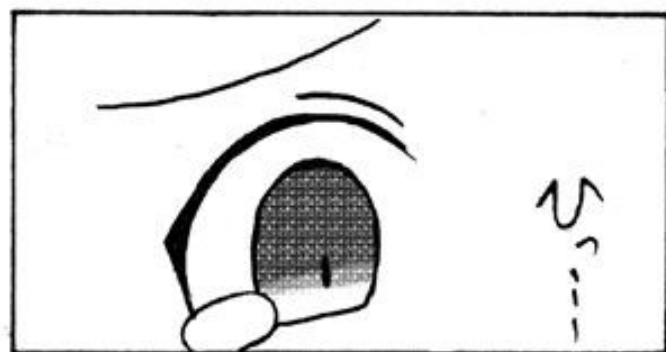
不思議な人形店

見学者@ケンガー











くまがわは

オールフィクションをつかった



めだかは

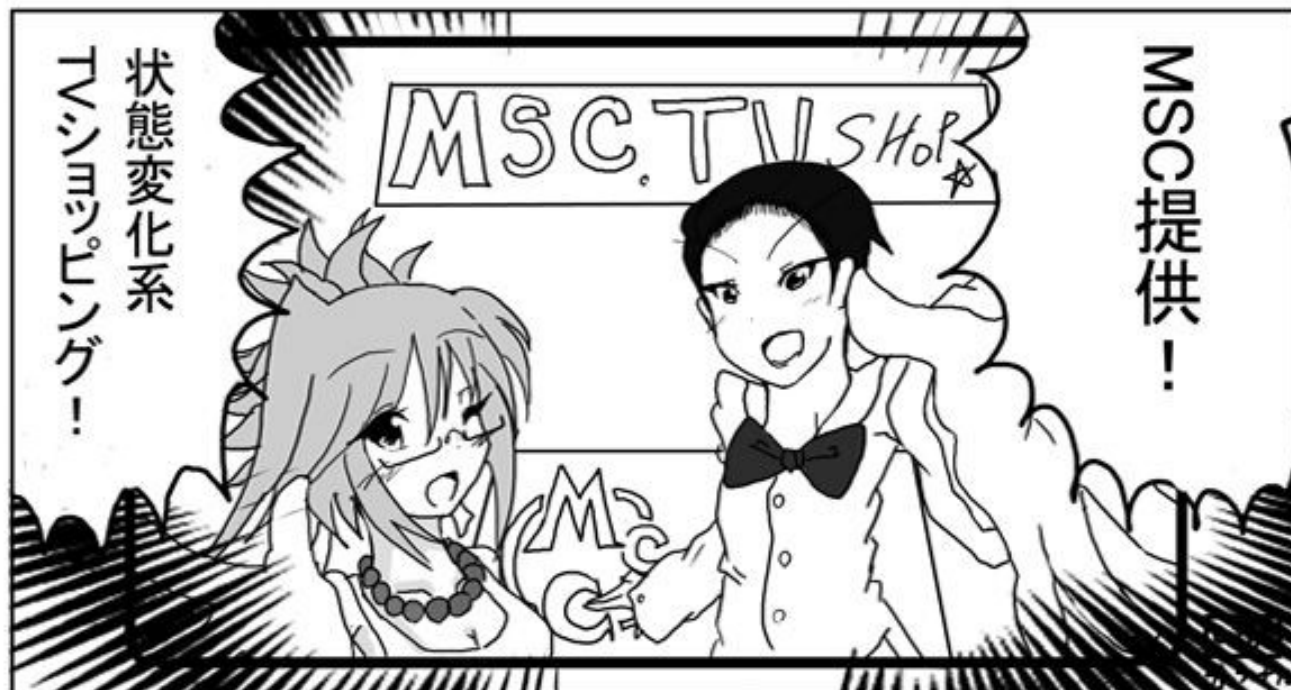
あつみがなかったことになった





箱庭学園生徒会執行部会計

喜界島もなか



MSC提供!

状態変化系  
ショッピング!



この番組で紹介される商品  
または道具は、全て状態変化  
関連の危ない、そして魅力の  
商品紹介をさせていただく

超特殊な番組よお♪



はい、今週もやってまいりま  
した、先週はやっていません  
でした。状態変化系「ショッピング」  
の時間です。

ちなみに電波ジャックで  
御送りします☆



あれじゃ早速  
商品を紹介しますの  
でお願いします♪

：あ、なんかスタッフが  
腕をグルグル回してますよ?  
これってなんでしたっけ、いそ

MSC提供TVショッピング

バカ作者

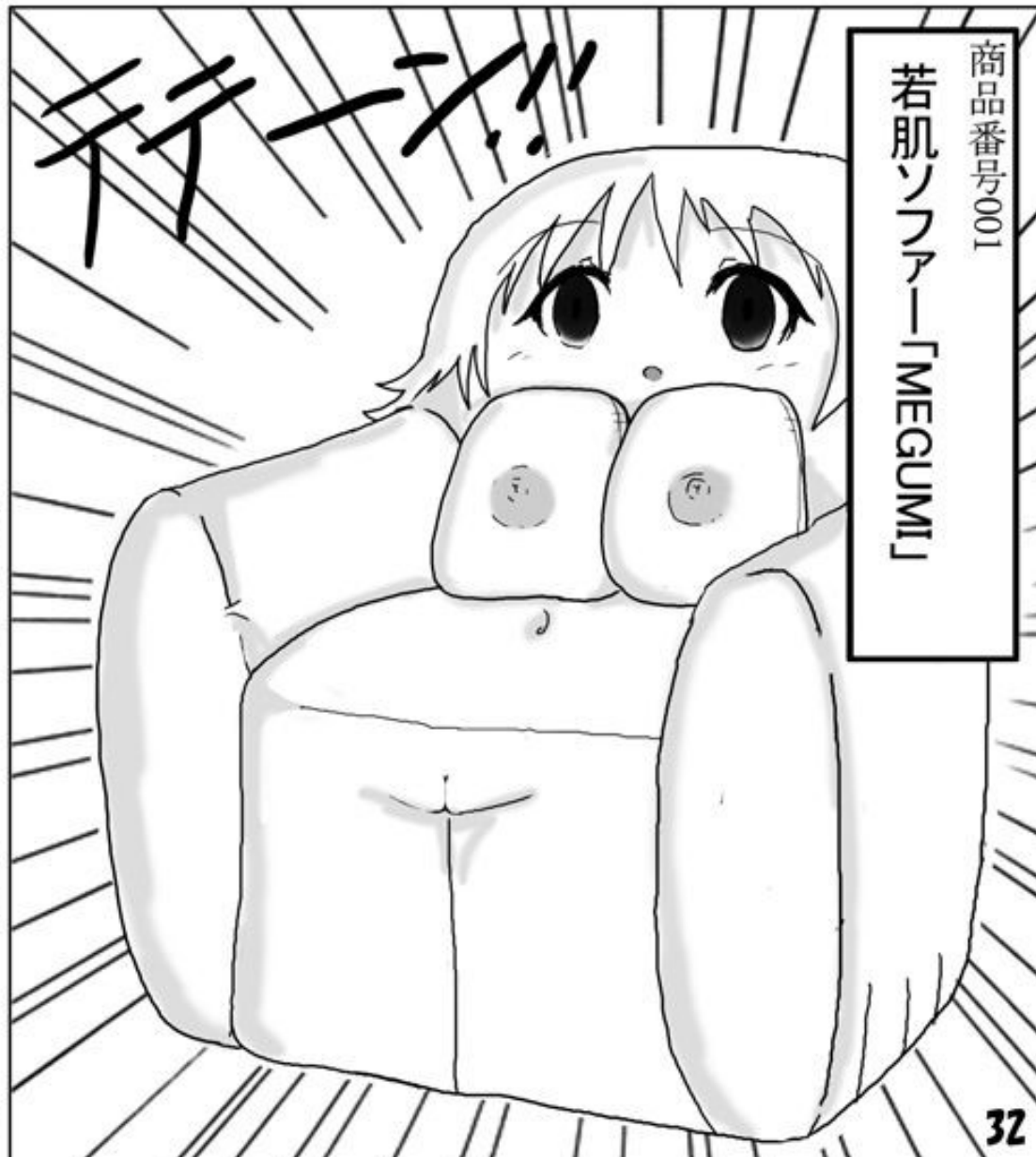


司会を務めさせて  
いただきます。

Mr.M.S-U

その愛人にてパートナー、  
ユーリーです♪

# ＊ 温もりのあるフカフカな人肌ぞなもし ＊





商品番号001  
人肌ソファァー「MEGUMI」

おまちして  
います〜

¥19,800円  
(送料込み)

ハ...ハッキング  
されてるわよ  
その番号!?

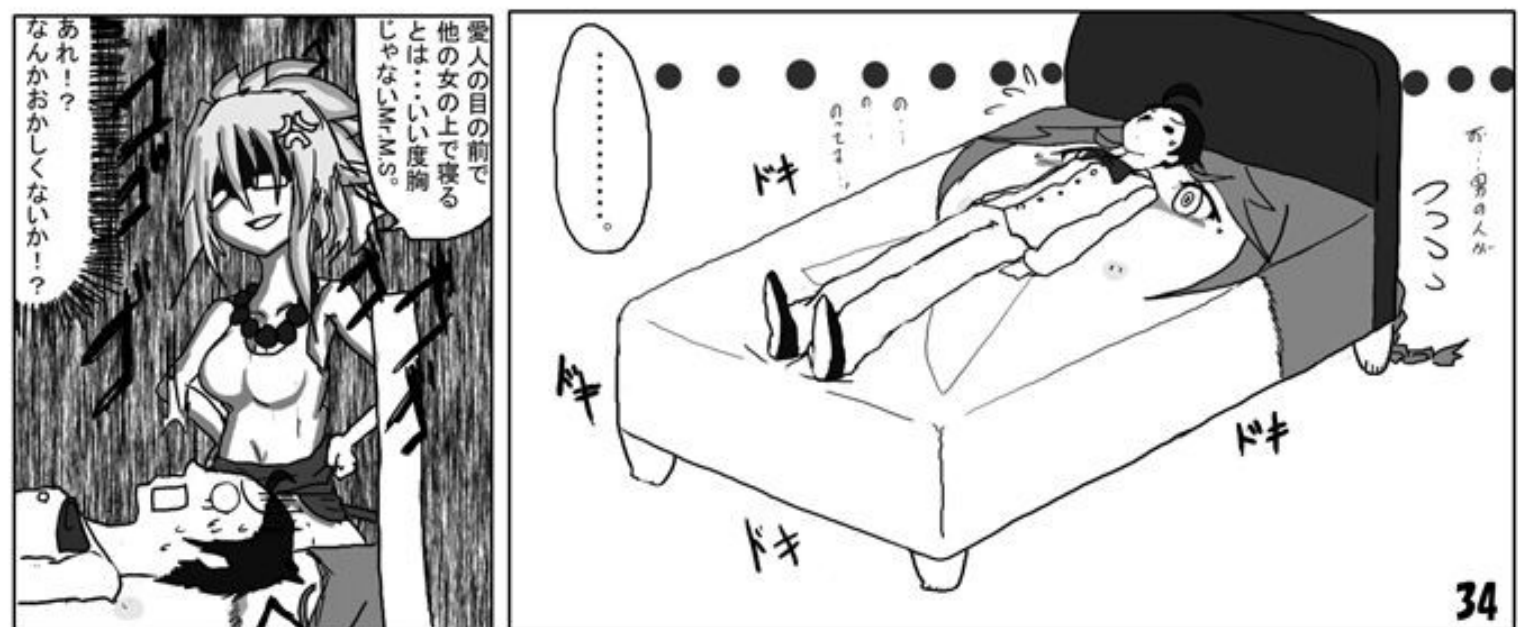
電話番号が出る前に電話が  
鳴りましたよ!?

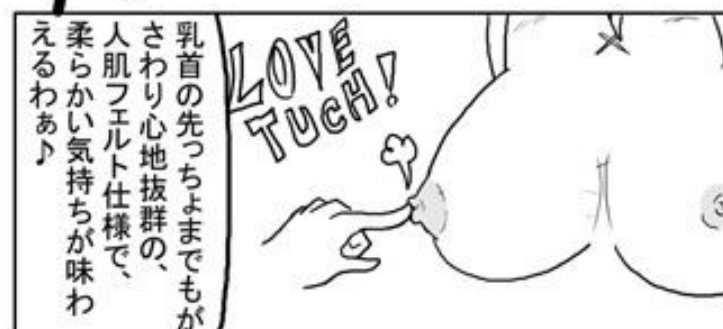
ハロ...ユウリーさん!

000-0000



# ＊ツルペタと馴染みの女の子セットはいかがかな？＊





おまちしてっ  
います〜♪

商品番号002-003  
新感覚！ツル触ベッドKOTOBUKI  
&  
友情抱き枕「KANAME」

¥25,800円  
(送料込み)

000-0000-0000

ぎやあつあああああ  
あああああう！？



✽その仕組みに魅力を感じろお！！✽





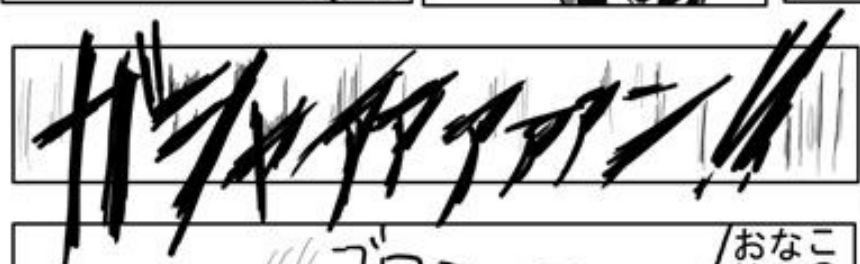
こうして、筒を下って透明なガラスケースに詰められた裸の女の子が完成。



ドロドロになった女の子は、  
どんな筒を通り、形が乱れ  
情けない姿へとなるわ。



ダイオンも驚きの吸引力で、  
吸い寄せた女の子は、吸い込  
み口から出てくる軟体化の  
液スプレーでドロドロになっ  
ていくのよー！



このように、簡単にエッチ  
な圧縮女の子が完成、  
お持ち帰りが可能よ！



あとは、上部の圧縮レベル  
バーを弄って、ボタンを押し  
機械上部が落ちてきて！

商品番号004  
吸引式圧縮装置

¥5,980円  
(送料込み)

(コークス炉ガス缶は別売りです。  
ご了承ください)

000-0000-0000

んー...まあ、科学者  
に売れば？



下部の蓋を取れば、  
簡単に圧縮された  
女の子を取り出せ、  
重複で入れる事も  
可能な便利グッズ！



そういえばこれ、  
コンセントないです  
けど電源は...

横側の電気の箱に  
「コークス炉ガス缶」  
を入れたらいいわよ。

ユウリーさん...  
一般家庭にコークス炉  
ガスはないかと...

# ※ 僕も私も物心魂は来週発売だよ？ ※





変換スイッチを押して  
約47秒後には...

このように！アイロンの形  
に似た女の子が完成です！  
胸などが大きいと、影響が  
大きいようです。



なお、形の構成は、常に  
変化しますので、何度でも  
楽しめますよー！

なお、この機械には、  
特殊な機能があって、  
人それぞれの好みが

別れていても多少は  
需要を出す事が出来ます。



人間に近いアイロンにするか、  
アイロンに近い人間アイロンにする  
か...、比較度メーターシステムに  
より、どちらか寄りの形を作る  
事ができます。

40 : 60



25 : 75



物に近ければ近い  
程、人間としての感情を  
なくして...

10 : 90



物度MAXにしたら、女の子の物陰  
が多少残った家具家電が完成！  
このように自由にいじれる事が  
可能なのです！

さあ、便利で素晴  
らしいこの商品、  
お値段は五万と  
七千円！



是非ともお電話を  
お願いします！  
お待ちしておりますま  
すよ！



後ろをみてみたら、凄く電源機材...  
これ最低でも400万は出てくるわ...

商品番号005  
「物品変換装置」



これじゃあ電気出力が  
すごいことになって、  
一般家庭じゃ不可能  
じゃないの...

¥57,000円  
(送料込み)



では、次があるかは  
わかりませんが！電話  
お待ちしてまーす。

皆様！これにて  
さようならあー！

000-0000-0000



あら、もう  
こんな時間！

そろそろ番組  
終了のお時間が  
やってきました。

あー…確かに、  
そろそろ警察が押収  
しかねませんね。



ふふふ、そんな  
矛盾した理論を持  
つ貴方に…

ちゃんと納得いく  
秘策を思いついて  
いるのよ！

秘策…  
というと？



前半の、紹介された家具の  
女性、あのまま他の人の  
手にわたると考えると…

まるで奴隷を売り出  
す商人みたいで、  
どこか気が引けるんで  
すけどねえ…



それは一夜限りの、貴方の本性  
を露にした番組でしょう…  
今こそ、認める時です。

おかしい男と女の出  
る番組を見て、興奮  
した貴方…

完



買い取る人の元には、  
その女性のデーターを  
とで組んで、本物に見せ  
かけたコンピューターで  
ごまかすのよお！

ちよ、  
それ詐欺じゃ  
…!?



# 状態変化 大実験!

GARON

「始めまして、私はガラムという者だ、科学者を生業としている」  
細身で長身の白髪の若い男がゆっくりと椅子から立ち上がる。

今回は作者の思いつきと勢いだけでこの場に登場することになったのだが……」

「博士！メタな発言は止めてください！」

緑のツインテールヘアの白衣を着た女の子が叫ぶ。

「リーナ、いちいち常識に捕らわれるな、科学とは常識の否定から始まるのだ」

リーナと呼ばれた女性は、すぐさま反論する

「常識に捕らわれないのにも限度があります！」

ガラム博士は、リーナを一にらみながら言う。

「ふん、助手の癖に言うようになったなリーナ……まあいい、

本題に入ろう、変化系の同人誌だから大体の予想は付くだろう」

ガラム博士はそう言いながら、リーナの肩をポンと叩いた

「……一応聞きますけど、何をやるんですか？」

リーナはおどおどと、半ばあきらめた様子で聞く。

「人体実験」

その言葉を聞き直ぐにリーナは全速力で出入り口に向かって逃走するが、突然勢いよく転び、そのまま動けなくなってしまう

「ふええあ？！か、身体が痺れて動かない！」

「そう言えば、今朝、台所の芋羊かんに薬を混ぜたっけなあ……」

リーナは、なんとか仰向けに体勢を取り、博士の方を向き叫ぶ

「わ、私の羊かんに何混ぜたんですか？！」

博士は、ポケットからストローを取り出しリーナの頭に当てる。

「シビレ薬と……身体がものすごく柔らかくなる薬だ！」

博士は、軽く当てていたストローをぐっと押し付ける、するとリーナの頭はグニャリと変形し、ストローの中に押し込まれてしまう。

「むぎゅっ！？」

リーナの頭部が完全にストローの中に収まりジタバタと暴れている、

傍から見ればとても奇妙な光景である、しかし、なおもストローは

押しつけられ、いよいよ身体もストローの中へと入って行く

「ン！ン！ン！ン！」

ストローに身体がじわじわと押しこまれていく、しかしストローは

筒状の物ゆえ当然出口が存在する。

「ふはあっ！」

反対側から、リーナの頭部がニルニルとゆっくり出てくる……

「博士！ひどいですー！」

「うるさい」

「んぎゅっ！？」

文句を言うや否や博士は隠し持っていた二本目のストローにリー

ナの頭に押し込んだ、呼吸ができるように頭部の鼻から上の部分だ

けがストローの出口から覗いている、呼吸はできるがしゃべること

は出来ない、リーナはガラム博士を涙目で睨む事しかできない。

「今回はゲストが来ているんだ、長いことお前を虐めている訳に

もいかん、しばらくそこで待っている」

そう言い、スイッチを押すガラム、床の一部が柱ごとせり上がる、

そこには柱に縛りつけられたリーナの姿があった。

「な、何なのこれ！？」

「初めまして、ある事情で君を変化させる、早速だがよろしく」

ガラム博士はスイッチを取り出しボタンを押す。

「ウィー——ン」

リーナの縛られている柱が、ゆっくりとせり上がり、それと同時に、

天井からローラー降りて来てリーナの足元へローラーが配置される。

「ちよつと、なんとなく想像は付くけど何するつもりよ！」

「見てのとおりだ、君にはちよつとペラペラになってもらう」

「や、やっばり！は、離さないよ！」

リーナは柱に宙ぶらりんの状態で足をバタバタとさせて暴れる。

「万が一解放するにしても手が届かないな、ルミア！来てくれ！」

ガラム博士が大きな声で誰かを呼ぶ、すると……

「お呼びですか？博士」

ルミアと呼ばれた現れた女性は、ガラム博士と同じ白髪の髪を、

大きな洗濯バサミのような髪留めでポニーテールにまとめている。

耳からは機械と思われるパーツが髪の間から覗いて見えてくる、

服装は、スカートの長いメイド服を着用し、赤い靴を履いている。

「さてルミア命令だ、その女の服を解放してやれ！」

「了解しました」

「な！？ちよ、ちよつと——！」

ルミアの胴体がぐにやりと長く伸びルミアの上半身がリーナの目の

前まで伸びてくる。

「そいつは私の作ったアンドロイドだ、作業効率を上げるために、

身体を自由自在に変形させることができる」

「それでは、失礼します」

ルミアの手元が刃物のように鋭くなり、素早く正確な動きでリー

ナの肌は一切傷つけず服だけを切り取っていく。

「な、何するのよ——！」



「暴れると危険ですよ、精密な作業は得意ですが、機械の私として万能ではありませんから」

「暴れるに決まってるでしょー!!」

「そうこうやり取りをしているうちに、リザは糸まとわぬ姿へとされてしまった、手を縛られてるので大事な所も手で隠せない。」

「う・う・う・う・」

「さて、いい格好になったな、次は・・・」

ガラム博士は、手元のスイッチを再度押した。

「ウィー・ウィー・ウィー・」

すると、吊るされたリザの足元のローラーが重々しく動作する。

「次の命令だ、ルミア、彼女の拘束を解いてやれ」

「了解しました」

「ちょ、ちよっと!」

リザは再び止めにかかろうと叫ぶ、この状態で拘束を外されたらどうなるかは一目瞭然である、しかしルミアはリザの後ろに手を伸ばし、淡々と機械作業のように拘束を解く。

「きやああ!」

リザは、重力に従い足元でゆっくりと回りながら待ち構えるローラーへと落ち、そして足がずぶずぶとローラーに巻き込まれて行く。

「あううう・」

ローラーは一切の妥協をせず一定のペースでリザの体をゆっくりと巻き込み、ベラベラの全く厚みのない体へと変化させていく、リザは必死に、ローラーを天井からぶら下げている器具にしがみ付くが、ローラーは止まることなくリザの体を飲み込む。

「お、足が出てきたな」

ローラーの反対側から、ベラベラと頼りない足が出てきた。

「ローラーを止めなさいよ!」

「だが断る」

ローラーは、リザの胸を巻き込み次は頭が潰されてしまう番だ。

「んむー!」

体が全て巻き込まれ、厚みが一切なくなったリザの体がローラーの反対側から出てくる、ローラーとの接点がなくなり、窓から吹く些細な風に身をゆだね、ヒラヒラと、ガラム博士の元に降ってくる。

「早く元に戻しなさいよ!」

「もう少し実験してからだ、俺の実験は安全安心だ、安心しろ」

「安心できるか!」

リザがそう言ったのを気にも留めず、博士リザを一度、パンツ!と広げ、足からクルクルと巻物のように丸めた

「はつかせー!何か面白そうなのとしていたわね?」

窓の方から声がする、ガラム博士が上を見ると、窓から悪魔のような尻尾と羽を付けた長い赤髪をなびかせた褐色肌の少女が、背中の羽をバタバタと羽ばたかせながらゆっくりと降りてきた。

「エレナ、ちようどいい所に来たな、ちよっと手伝ってくれ」

「い・や・めんどーだもん」

エレナと呼ばれた少女はあつさりとガラム博士の要求を断った。

「くっ・リーナに召喚された居候の分際で・・・」

「召喚されたくてされたわけじゃないわ」

「じゃあエレナ、もっと簡単なことを手伝ってもらえないか?」

「だから、嫌だつて言ってるじゃない」

「なに、簡単なことだ」

そう言いながらガラム博士は懐から小さな瓶を取り出して、瓶の口を飛んでいるエレナに向ける、すると瓶が周りの空気を勢いよく吸い込み始め、エレナが瓶の口に徐々に引き寄せられる。

「ちよっ!なにこれ!・きやああ!」

エレナは、あわてて逃げようとしたが、身をひるがえす暇もなく、瓶に引き寄せられ、ちようどへその辺りが瓶の口に密着する、そして、腹部から指ひとつ入るくらいの小さな穴の中に体を変形させながらゆっくりと入っていく。

「ちよ!放してよお!」

ルミアの訴えは意に介さず、胴体が完全に吸い込まれ体が二つ折りの状態になる、それでもなお吸入は止まらない、しかも、服は吸入されず、生身の肉体だけが瓶の中へと吸い込まれていく。

「うぎゅうう!」

体のほとんどが吸い込まれ残すは頭部と膝から下の足だけである、瓶はそれをたやすく吸い込んでいく、エレナの顔はぐにやりと瓶の口のサイズに合わせて細く変形し、にゆるにゆると瓶の中に入っていく、頭部が先に吸い込まれ残す足は、バタバタと抵抗するがたやすく瓶は足を吸い込んでしまった。

「ちゅほん!」

と小気味いい音を立てて、エレナは完全に瓶の中に入ってしまった、吸い込み口に服が引っ掛かり脱げて、生まれたままの姿で小さな瓶の中に二つ折りになっておさまっていた。

「こ、ここから出さなさいよ!」

瓶の中から少し曇った声で、エレナが叫ぶ。

「人の頼みを断るからだ」

そう言つて、博士は、瓶の口に栓をはめて蓋をしてしまった。

その後、博士は変化させられた3人を一人で運び気の赴くまま実験を3人に施し満足したところで解放した。

後日、体の弱い博士は全身筋肉痛になってしまったとさ...

血の様な赤い月が照らす深夜の公園、当然遊びふける子供などいるはずもなく……代わりにそこにいたのは。

「やっと追い詰めたわよ、植物妖魔ルーサー！」

腰まで届くほどの淡い水色の髪に吊り上がった黄金の瞳、そして陶磁器のような白い素肌の少女……だがその姿は白いバレエ衣装に腰にピンクの大きなリボンそして桃色のカーストッキングと白いブーツを履き、なによりも背中から一對の大きな翼を生やしていた。

「このボク、覇羽美香と葵お姉ちゃんがさっさと倒してあげるんだから——」

右手にもった神々しい光を放つ剣を構え、目の前にいる女性に言い放った。

「うんそうだね……妖魔は逃がさないよ」

美香と名乗る少女の隣にはびよんと伸びたアホ毛が特徴的な金髪に桃色のアイバイザーから覗く深い翡翠の色の瞳、の姿の美香とは違い動くたびに揺れる胸と扇情的なお尻をもつ少女の姿の葵……だが身に纏う衣装は美香同様に普通の衣装ではなく、黒のインナーにいかにも動きやすそうな桃色の和服を身に纏った魔法少女の様な姿、その右手には十文字槍を構えていた。

「ふふ……魔法少女2人で上位妖魔の私に勝てるのかしら？」

そして美香と葵が相対する女性、ルーサーと名乗る妖魔もまた、異端の姿をしていた……妖艶な翡翠の瞳に地面にまで届きそうな翡翠の髪、身に纏う衣装は胸を強調し露にする赤い薔薇をあしらった桃色の短いスカートのドレス、異端の衣装でありながらもその美しい姿とルーサーが纏う妖艶な雰囲気は見る者全てを魅了するほど美しかった。

「ふふんだ、葵お姉ちゃんとボクを舐めないでよね——」

ルーサーの言葉に怒りをもち、美香はその怒りのままにルーサーへと剣を構えたまま一気に駆け出し突撃し……

「って美香ちゃん、いきなり攻撃は危険だよ」

美香の行動に虚をつかれながらも葵も美香と同時にルーサーへと駆け出していた。

「悪いけど……私は雑魚の相手はしたくないのよねえ」

2人の魔法少女が迫る中でもルーサーは悠然と立ち、そして公園の地面が突如緑色の光を放ち光りだす。

「えっ、ええ……な、何！？」

いきなり地面が光り出した事に驚き立ち止まってしまふ美香。

「しまった、結界！？」

対して葵は光の正体が空間を歪め妖魔が産み出す結界とわかり……

……自分のうかつさを後悔する。

「さあ……私の可愛い植物達で可愛がってあげるわ」

そして妖艶な笑みを浮かべたままルーサーはと指を鳴らすと……

「あ、葵お姉ちゃん——」

美香の叫びを残し……公園から3人の姿が消えた。

美香達の敵である妖魔は人知れず人に襲い喰らう存在であり、

美香たち魔法少女はそんな妖魔と闘う力をもった少女である。

そして上位妖魔には結界に獲物を捕らええる力をもち……

「やああああ——」

無数の草木が生い茂りぬかるんだ地面そしてサウナのような蒸し暑い温度、まるでジャングルのような場所で美香は自分へと襲い掛かってきた全身苔だらけの下級妖魔である苔人間を切り倒した。

「早く葵お姉ちゃんと合流しないと……でもなんて蒸し暑いんだよ」

結界に囚えられた美香と葵は2人離れ離れとなってしまう、美香は早く葵と合流しようと次々と現れる下級妖魔を倒しながらこのジャングルのような結界の中を進んでいた。

「はあ……もう体中汗でべとべととして気持ち悪い」

可愛い魔法少女衣装を汗で蒸れさせてしまい、嫌な感触を受けながら美香はさらに進んでいく。

「……また苔人間？」

そして進んでいく美香の前へと出現する5体の苔人間。

「すぐに倒してあげるんだから——」

そして美香は自分の翼を淡い光で包み、バサリと翼を1回だけ羽ばたかせ空中に淡く光る無数の羽を出現させ……

「いっちゃえ、エンジェルフェザー——！」

空中に漂っていた羽は一齐に苔人間へと向かって飛んでいく。

「ふふん、まずは3体撃破ね？」

無数の羽によって3体の苔人間は一瞬にして穴だらけとなり倒れるが……残った2体の苔人間は美香へと突進していく。

「そんな遅い攻撃に当たらないわよ——！」

まずは突進してきた苔人間をサイドステップで回避し、即座に剣を振るい苔人間の首を切り落とす美香。

「残り1匹……っと危ない」

剣を振るう動作の隙を狙って美香の無防備な背中へと拳を振るう苔人間だったが、その拳は光を纏った美香の右翼に防がれ逆に吹き飛ばされてしまう。

「これで……終わり——！」

そして吹き飛ばされ体勢の崩れた苔人間を横に払い切り倒す美香。

「それにしてもこいつら何体いるのよ？」

いくらか下級妖魔である苔人間とは言え、結界に取り込まれたからすでに十数体を倒した美香はうんざりとした表情で進んでいく……

そして美香の目の前には……

「今度は強そうね」

開けた場所に悠然と生える5mはあろうかという巨大な灰色の百合……そしてその巨大百合の周囲には無数の蔓が地面から出現していた。

「でも負けないわよ——！」

巨大百合を相手にしながらも美香は翼に魔力を送り光を纏わせ突進していく。

巨大百合も何もしないわけではなく……その花卉からは灰色の粘液弾を美香へと連続で発射し、周囲の蔓が美香に絡み付こうと蠢きます。

「ふん、そんな粘液当たらないんだから——！」

まだ距離が遠い事もあってステップを踏みながら粘液弾を回避し、そして迫り来る無数の蔓は剣で払い切り落としていく。

「いっけえ、エンジェルフェザー——！」

そして半分まで進んだところで美香は翼を羽ばたかせ無数の羽を巨大百合へと放ち、自身はその反動を利用して高くジャンプする。

だが巨大百合も次々と粘液弾を放ち向かってくる羽を粘液で包み込み石化させて地面へと落していく。

「うえ……あの粘液石化効果つき、だったらコレで終わらせるんだから——！」

美香は自身を強い光で包み込むと、そのまま猛スピードで巨大百合へと突進していく。

「ホーリージャッジメント——！」

突進を止めようと美香へと襲い掛かる無数の蔓だが、そのすべてが美香に触れる前に強い光を受けて消滅し……そして巨大百合の元について美香が十字に巨大百合を切りつける。

「これで終わりね」

美香に十字に切りつけられた巨大百合は四分割にされ……さらに直後に光の爆発が起きて完全に消滅した。

「さて……美お姉ちゃんどこか……あれ？」

先へ進もうと歩き出したはずの美香は動きが止まり、足が前に進まない。

「えっ、どういふこと……なにこれ？」

突如歩けない事に驚き慌てる美香だが……

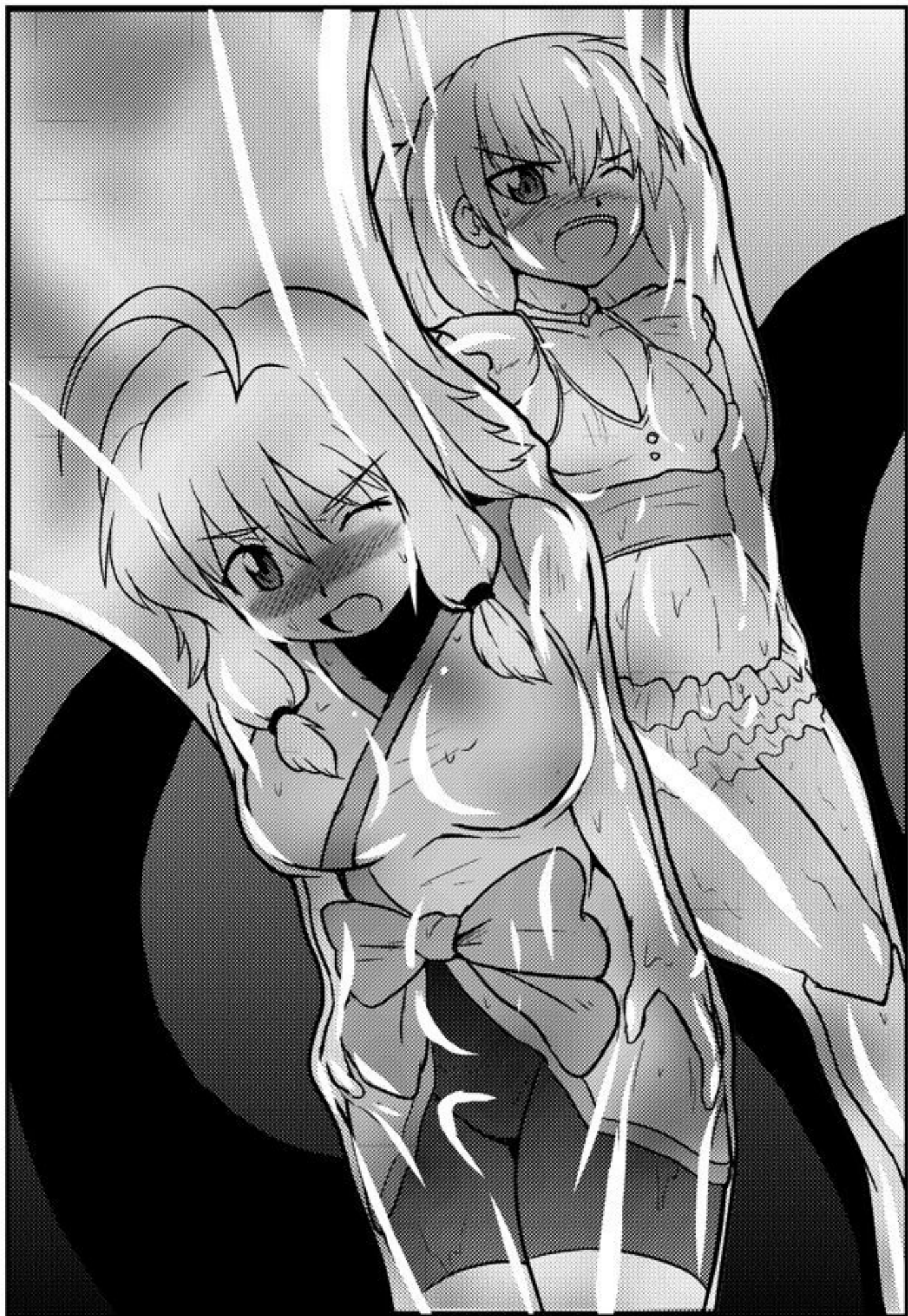
「ボクは全部攻撃を避け……むぐう——？」

美香の下から地面から無数の蔓が出現し美香の四肢を絡めとり、更にはその小さな口へと進入してきた。

（うそ、だってさっき倒したはずじゃないどうして……）

小さな体と翼を必死に動かし時には魔力を込めようとする美香だがさらに何重にも蔓が巻かれ浮かび上がらせると蔓が巻かれた場所から美香の体が石化していく。

（うそ、こっちにも石化効果があるの……いいやああ、ボク、石になんかなりたくないよ）



パキパキという音を立ててほとんど美香の四肢を石化させ更には幼い顔も胸も徐々に石に変えていく無数の蔓……そして。

「あ、アレが本体なの……うう、あ、美お姉ちゃん……ごめん」

地面から出現したのは蔓の元となった巨大な球根だった……そしてその姿を確認すると同時に美香は石となった。

「はあはあ……くう」

結界に囚えられた美はルーサと相対していた……だが。

「いい加減解らないのかしら……無駄なことには？」

美は滴り落ちる汗を気にすることなく、目の前のルーサを睨みつけていた。

「どうなってるの……いくらダメージを与えても直ぐに回復するなんてどこかにコアがあるの？」

美は手に持った十文字槍を連続で突き、ルーサを攻撃し……

「だから、そんな攻撃は無意味なのよ？」

ルーサの顔の右半分、右胸、左肩、腰、左足を穿ち穴を開けるが一瞬にしてルーサは回復し元に戻ってしまう。

（他の妖魔にも高速再生をもったタイプがいるけど、ルーサは全然違う……このままだとシリ貧かな）

そしてルーサが手を上げると、周囲の地面から蔓が出現し美へと一気に突進していく。

「……………くっ」

薙ぎ払い一瞬にして全ての蔓を倒す美。

「じゃあ、今度はこれにしましょうか？」

さらにルーサが手を振るうと10個の巨大チューリップが出現し……その花弁から無数の粘液弾を発射する。

「こ、これくらい」

飛んでくる粘液弾を回避しながら目の前のチューリップに近づき切り倒す美。

「その調子で頑張ってね」

ルーサはそんな美を嘲笑い続けて……

「ば、ばかにしない……きやあ！？」

ルーサに挑発され怒りながらも次のチューリップに近づこうとした美は地面にあったバナナを踏んでしまいつるんと地面へとうつ伏

せに倒れてしまった。

「うう、な、なんでバナナが……きやあ！？」

バナナを見る美へとチューリップから放たれた粘液弾が次々と命中した場所から蔓を石へと変えていく。

「あらあら、これでお終いのね？」

美はなんとか必死に立ち上がろうとするが既に何発もの粘液弾を受けて足も手も殆ど石になった状態ではなかなか立てず、そしてそのままさらに粘液弾を受けることになってしまった。

「うう……そ、そんな……こんなの、い……や」

そして美は立ち上がろうと十文字槍を杖代わりにした姿のまま石となった。

「やっぱり雑魚魔法少女だったわね……あっちも終わったようね」石化した美の手から十文字槍を抜き取り投げ捨てるルーサの前へと蔓によって運ばれてきた石化した美香。

「このまま石でもいいけど……せっかくの魔法少女だもの、剥製みたく保存した方がいいわよね」

そして運ばれたきた美香の手からも剣を抜き取り投げ捨てるルーサ……次に手を開き蔓の首輪を産み出すとそれを2人の首へと装着していく。

「これで元に戻ってもただの女の子、さあ存分に抵抗して剥製になる姿を私に見て楽しませてね？」

被虐的な笑みを浮かべたままルーサは両手に魔力を込めて、自身の両手を半透明なウツボカズラに変えていき……その入口を2人の頭へと多い被せ、ほとんど足元まで卸し2人を完全に包み込む。

「さて……準備は終わり。さあ……苦しみ悶えて剥製になる姿を私に見せてちょうだい」

そしてルーサは2人の石化を解除して……

「あ、あれ……ボクは美お姉ちゃん！？」

まずは石化を解かれた美香が隣の半透明の袋に包まれた美を見て声を上げる。

「えっ美香、何これヌルヌルして気持ち悪い……きやっ」

美香の声を聞き、美香の方を振り向く美だが直後にウツボカズラの袋にある粘液の感触に悶えてしまう。

「2人ともおはよう……まあすぐにおやすみなだけとね？」

そして2人の目の前ではルーサが変化した自分の上を圧縮し、更に魔法少女を剥製へと変化させる粘液を送り出している。

「くう、ルーサ、ボクと葵お姉ちゃんを出してよ!!!」

徐々に圧縮され肌へと密着していくウツボカズラの袋の中で美香はなんとか脱出しようと体を動かしかしルーサを睨みつける。

（これ変化の魔力……それに私の魔力が使えない?）

美香とは対照的に葵は自分たちの現状を把握し、なんとか脱出しようと考えたが剥製にする粘液と魔力の使えない現状に気がつき。

「出すわけないでしょ……あなた達は剥製になるんだから?」

ルーサの言葉と共に2人の体は直立不動のままウツボカズラによって指1つ動けないほど圧縮されてしまう。

「くう……は、剥製にしてど、どうするつもりよ」

動けないままそれでも体を動かそうとする葵だが、やはり動かす事はできずルーサに問いかける。

「もちろん、このまま不様な魔法少女として晒し続けてあげるわ」

クスクスと嘲笑い葵に答えるルーサ、その間にも2人の足元から膝までが剥製液に包まれ激痛と共に2人の足を剥製に変えていく。

「ひぐうう、こ、このお、ま、負けないんだから!!!」

激痛に苛まれさらに腰まで剥製液に包まれた美香は涙を浮かべながらもルーサを睨みつけ……

「でも負けるのよ……剥製にされてね」

美香の睨む瞳を受け流し、2人は腰までテカテカと輝く剥製にされてしまい……さらに激痛が襲い掛かる。

「いつう……た、例えそうだとしめてもあなたはいつか他の魔法少女に倒される……んだから、あっああああ」

あまりの激痛に声を漏らしながらも心だけは折れまいと葵はルーサを睨んで……

「うふふ、そうなるといいわね……ほら次は腕よ」

ルーサは葵の言葉もどこか楽しむように聞き、2人の腕は完全に動かなくなり剥製となって……更に剥製液は2人の胸を包む。

（うう、い、痛いよお……葵お姉ちゃん）

あまりの激痛にまずは美香が声を出す余裕もなくなり苦しみから逃れるように目を瞑る。

（美香ちゃん……うう）

既に顔を残し剥製となった自分達を見ながら葵は苦しみに耐え。

「さあ、これでおしまいよ」

そしてルーサは2人を完全な剥製へと変えた……痛みで瞳を開き苦しむ姿の美香と痛みを耐える葵。

「なかなかいい剥製ね……他の子にも見てもらおうかしら?」

ルーサは完成した2つの剥製を包みこんでいた手を離し永遠に閉じこめるウツボカズラへと変えた。

……その後、妖魔の間では魔法少女の剥製として2人は未来永劫、助かることなく晒され続けた。

# ●作者あとがき●

・今回の同人誌のコンセプトに合わせ、だいぶ前に描いていた漫画のノリを思い出しつつ描いてみました。ギャグ系状態変化は描くのも楽しいので、次回以降も続けていければいいなと思っております。

黒野白瀬

・サークル同人誌参加は初めてです。声を掛けてくださった三角州さん、感謝です。

牙行

・こんにちは、ブランク長いです。新しい同人誌に参加させていただきありがとうございます。今回の題材の人形化は、個人的には変化の中で最も好きな部類になります。パカ作者さん、友情出演ありがとうございました。

究極のD

・EDで踊るキュアミューズの髪の毛にくらっときて思わずこんな絵を描きました。

桃色河馬さん

・カタメイト復活おめでとうございます。今回やや獵奇系な固め絵になりましたが、女の子の身体そのままで固めを楽しむには剥製が一番です！ごく一部の方だとは思いますが楽しんで頂ければ。

あおば

・こういう同人誌に参加するのが夢でした。誘ってくれた方ありがとうございました。こういった企画にまた参加してみたいです。

蒼灯

・初の同人活動に漫画と、慣れないこととした結果色々と迷惑もかけてしまいましたが、何とか描き上げることができました。少しでも読んで楽しんでいただけたら幸いです。

見学者/ケンガー

・手に取って頂きありがとうございます。前から状態変化で色々描きたいと思ってた作品だったので描いて楽しかったです。

龍乃鳳樹

・同人誌初参加で10Pも頂いて光栄です。とりあえずコミスタで描きたかったw状態変化よ永遠なれ！次回も多分参加しますのでよろしくお願いします。

バカ作者

・この同人誌を手にとってくれた方、ありがとうございます。今回は初の同人誌デビューとなり不慣れな所もございましたが楽しんでいただけたら幸いです。

GARON

・今回はオリジナル魔法少女ものの作品を書いてみました、少しでも固めの魅力が伝われば幸いです。

枯木

・奥付

誌名：変化屋本舗

発行日：2011年12月31日

発行者：三角州 発行サークル：状態変家

ご感想、ご意見はこちらまで！

brog: <http://henkaya.blog.fc2.com/>

※無断複製、転載、ネット上へのアップロードを禁じます。

※未成年者の購読、及び閲覧を禁じます。